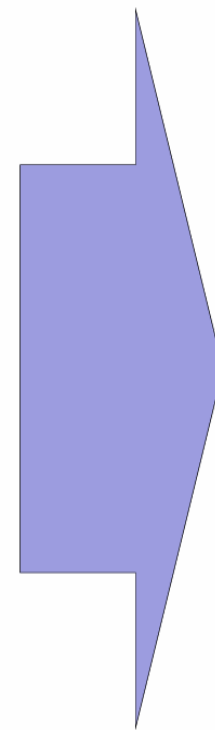
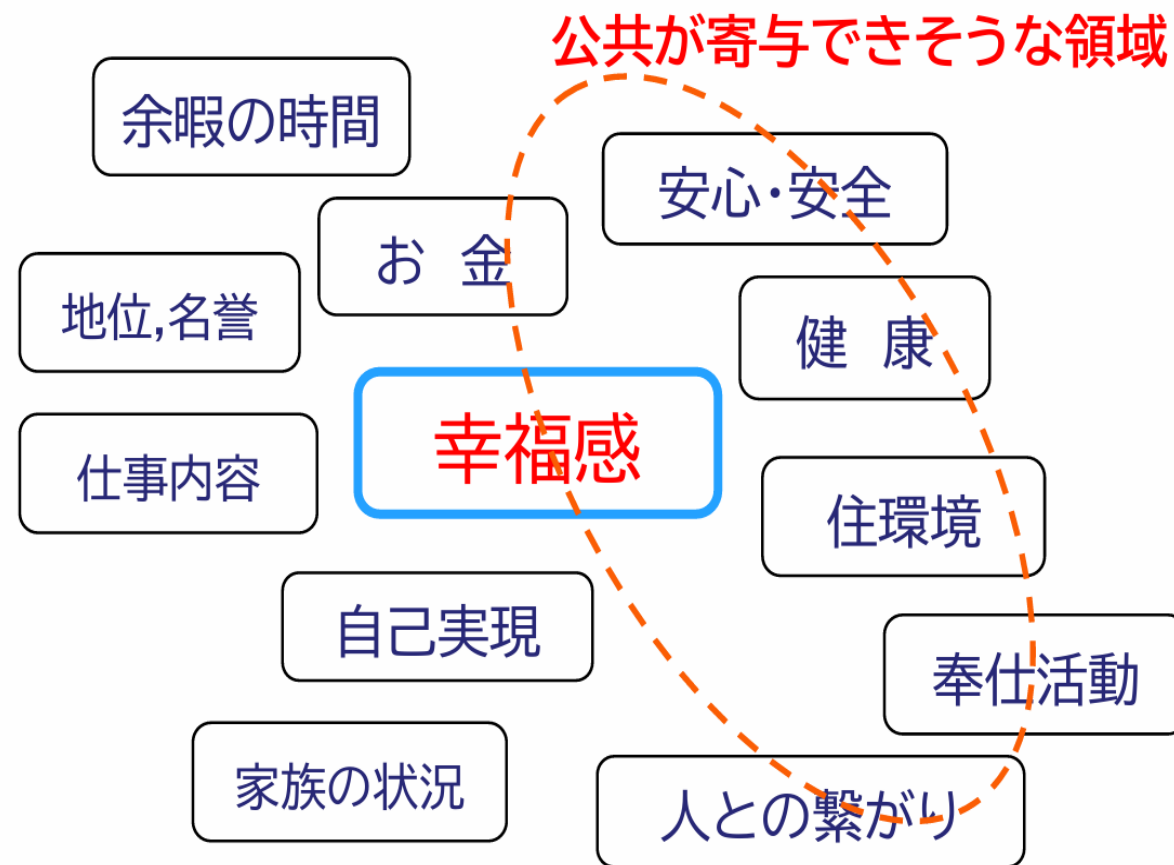


Well-Being

～自治体の取り組み～

兵庫県加古川市
福島県会津若松市



Well-Being指標
の活用へ

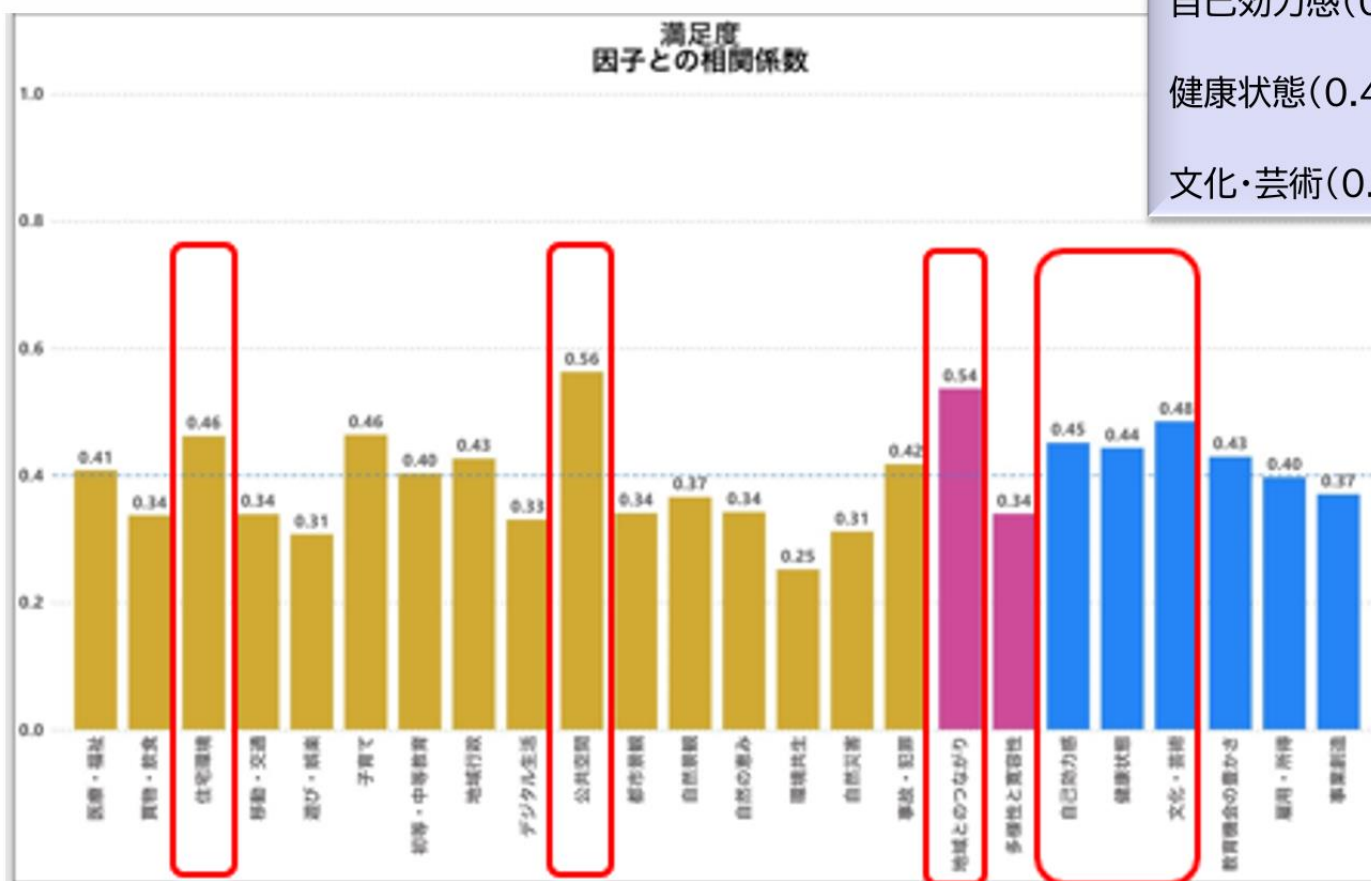
幸福感やそれに関する構成要素を
定量的に評価できるかどうかが肝要



取組(3) 調査結果の活用②

●令和5年度全国調査結果の活用

SCI様の分析ツールから幸福と相関のある(相関係数0.4以上)の分野を確認。



住宅環境(0.46)
公共空間(0.56)
地域とのつながり(0.54)
自己効力感(0.45)
健康状態(0.44)
文化・芸術(0.48)

令和6年度 施政方針

令和6年度 施政方針にも記載

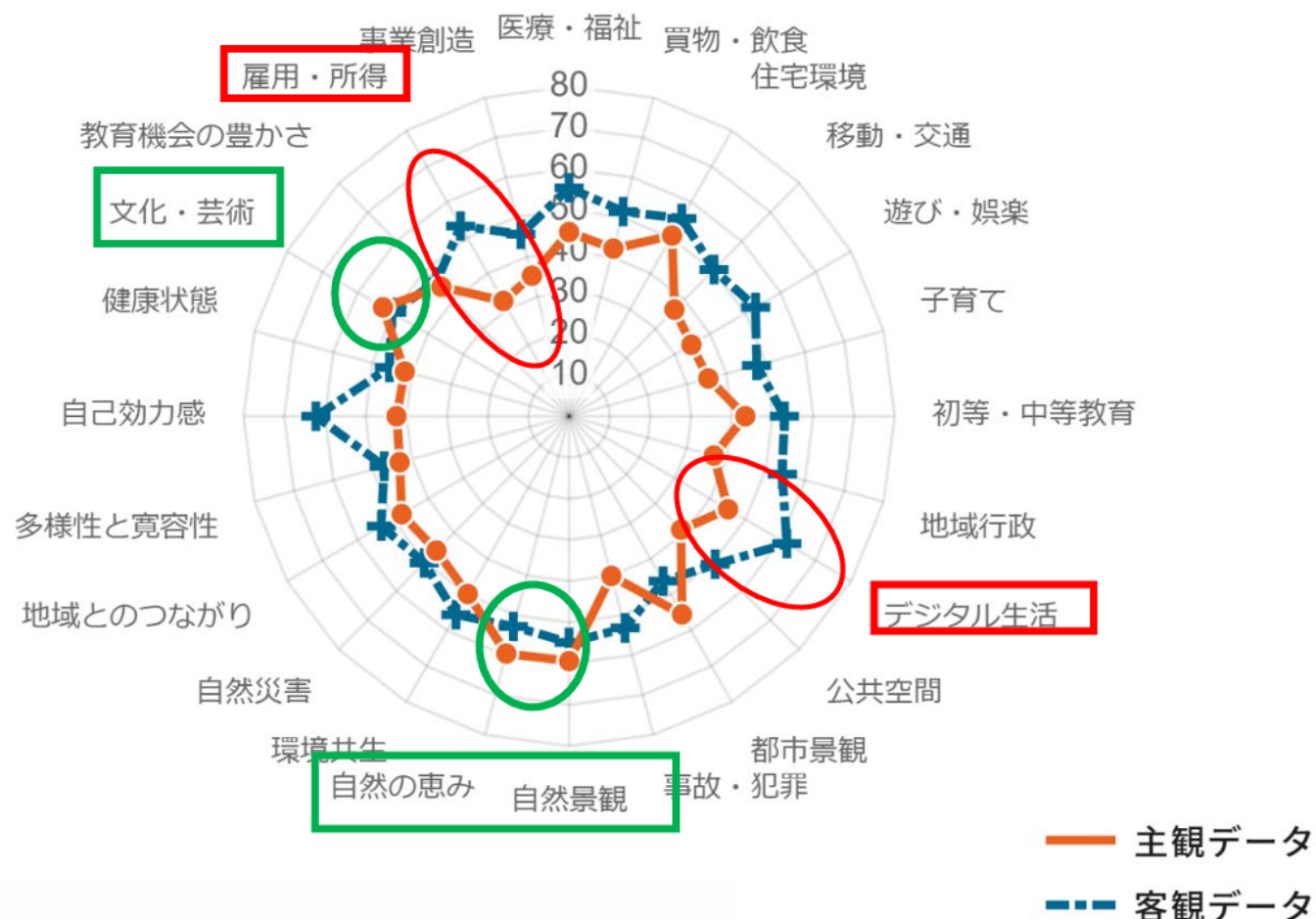
加古川市

本市では、従来から継続してきた市民意識調査に加え、昨年度から市民の幸福感や暮らしやすさを測定できるウェルビーイング指標を全国に先駆けて導入しています。その結果から、本市では「健康状況」や「地域とのつながり」、「文化・芸術」、「公共空間」などといった因子が、市民の幸福感と相関が強いことがわかってきました。引き続き、幸福感の測定を続けるとともに、様々な因子との相関関係を分析し、施策に反映していきたいと考えています。

（事例）地域幸福度（Well-Being）指標活用（会津若松市）

- 会津若松市では2013年から「スマートシティ会津若松」の推進を表明し、様々な分野でICTやデジタル技術を活用する取組を推進してきた。
- 会津若松市は、地域幸福度（Well-Being）指標の「デジタル生活」や「雇用・所得」の客観指標が高いのに対し、主観指標が50を下回っている。乖離の幅が大きい場合、市民の実感や評価が伴っていない可能性を表していると捉えている。
- 一方で、「自然景観」「自然環境」「文化・芸術」の категорияについては主観指標が客観指標を上回っており、会津若松市の市民が地域の景観や自然、文化・芸術について一定の評価をしていることが窺える。
- 地域幸福度（Well-Being）指標はカテゴリー毎に地域の個性や強み・弱みだけでなく、市民の実感を数値で把握することができることから、「第3期 会津若松市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、KPIに加え、事業効果の検証を行うツールとして、地域幸福度（Well-Being）指標を位置付け、活用していくこととしている。

【会津若松市のレーダーチャート】



【指標の活用事例】

